

研 究

母親の養育態度とマインドフルネスおよび
幼児の社会的スキルと問題行動の関連性八橋 孝介¹⁾, 高瀬美由紀²⁾, 小林 敏生³⁾

〔論文要旨〕

本研究は、3～6歳の幼児をもつ125名の母親を対象とし、母親の養育態度（応答性および統制）、母親のマインドフルネス、幼児の社会的スキルおよび問題行動の関連性について検討することを目的とした。その結果、母親の統制を除き、いずれも有意な相関を認めた。また、重回帰分析の結果、幼児の社会的スキルの高さ、および問題行動の少なさには、母親のマインドフルネスの度合い、および応答性の高さが関連した。人間関係は相互作用であり、子どもから母親への影響についても考慮する必要があるが、幼児の社会性の発達に寄与する可能性のある母親のマインドフルネスや応答性といった側面をそれぞれ高める重要性が示唆された。

Key words : 養育態度, マインドフルネス, 幼児, 社会的スキル, 問題行動

I. はじめに

家族とは、子どもが社会に適応し生きていく能力や知恵を身に付けさせる教育の原点であるため、親が子どもに対して、愛情を持って教育することが重要である。しかしながら、近年、家族の一人一人が個別に行動する時間や機会が多くなる、あるいは離れて暮らす家族が増えている等の影響による「家族行動の個別化」が指摘されており¹⁾、これによって家族の「子どもを生み育てる」役割が弱まる可能性、あるいは子育て負担が母親に集中する可能性が指摘されている¹⁾。子育てにおける母親の子どもに対する影響は大きく、中でも「母親の養育態度」が子どもの社会的スキル（協調性など）や対人関係における問題行動（攻撃行動など）などの、いわゆる社会性の発達に影響を及ぼすことがこれまでに報告されている^{2,3)}。Baumrind⁴⁾は、親の

養育態度を Responsiveness（応答性）と Demandingness（統制）に分類しており、中道ら⁵⁾は、応答性を「親が子どもの意図・欲求に気づき、愛情のある言語や身体的表現を用いて、子どもの意図をできる限り充足させようとする行動」、統制を「子どもの意志とは関係なく、親が子どもにとって良いと思う行動を決定し、それを強制する行動」とそれぞれ定義している。このBaumrind⁴⁾の分類法は、わが国においても取り入れられており、母親が応答性と統制を共に重んじているほど、幼児の攻撃行動が少なかったことが報告されている⁵⁾。また、中道⁶⁾は、母親が応答性と統制を共に重んじているほど、幼児の自己抑制機能が発達していたことを報告している。従って、母親の応答性および統制は、いずれも幼児の社会性の発達にポジティブな影響を持つ可能性が考えられる。さらに、米澤⁷⁾は、親の養育態度とは別に、親の「子どもに対する向き合い

Correlation among Mothers' Parenting Attitudes and Mindfulness to Infants' Social Skills and Problem Behaviors

Kosuke YABASE, Miyuki TAKASE, Toshio KOBAYASHI

1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科（その他）

2) 安田女子大学看護学部看護学科（研究職／看護師）

3) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科（研究職／医師／内科）

別刷請求先：八橋孝介 広島大学大学院医歯薬保健学研究科健康開発科学研究室 〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3

Tel : 082-257-5388 Fax : 082-257-5344

[2760]

受付 15. 8.10

採用 16. 1.30

方」について言及し、親が子どもに対して真剣に向き合うことの重要性について述べているが、これに関連する概念として「マインドフルネス」が挙げられる。

マインドフルネスとは、日本語では「気づき」と直訳されており⁸⁾、人や物事に対する捉え方や向き合い方を表す概念である。また、日本マインドフルネス学会は、マインドフルネスについて「今、この瞬間の体験に意図的に意識を向け、評価をせずに、とらわれない状態で、ただ観ること」と定義している⁹⁾。マインドフルネスの効果については、これまで多くの研究が行われており、近年はうつ病や社会不安障害などに対する心理療法としてマインドフルネスが取り入れられ、その効果が実証されている^{10,11)}。また、マインドフルネスを取り入れた育児法として Mindful Parenting が提唱されており、実際に母親がマインドフルネスを涵養することで、母親のストレスが低減し、子どもの社会性が向上した¹²⁾との報告もある。従って、育児にマインドフルネスを取り入れることは有効と考えられ、本研究においては母親のマインドフルネスの度合いが高いほど、母親の養育態度はより望ましく、子どもの社会性は高いという関係性を想定している。実際に、欧米では横断研究により、母親のマインドフルネスの度合いが高いほど、母親は応答性と統制を共に重んじており、かつ子どもは問題行動が少ない傾向にある可能性が示唆されている¹³⁾。しかしながら、これらの関連性について調査した研究は上記研究以外には見受けられず、またわが国においては同様の研究は未だ行われていない。また、先行研究では「子どもの問題行動」というネガティブな側面のみが測定されているが、子どもの問題行動が少ないだけでは、その子どもが十分な社会的適応能力を身に付けているとは限らない¹⁴⁾ことから、「子どもの社会的スキル」というポジティブな側面も測定する必要性が考えられる。そこで本研究では、わが国の母子関係に焦点を当て、母親の養育態度（応答性および統制）、母親のマインドフルネス、幼児の社会的スキルおよび問題行動について関連性を検討することを目的とした。

II. 方 法

1. 母集団と対象

母集団を日本国内の幼稚園に通う幼児（3～6歳）をもつ母親と想定し、対象集団を広島県広島市の幼稚園（2施設）に通う幼児（3～6歳）をもつ母親339

名とした。

2. 調査期間と方法

調査期間は、2014年5～7月の3か月間であった。方法は、施設ごとに無記名自記式質問紙、研究協力依頼書、返信用封筒を入れた資料一式を研究者が持参し、園の職員を通して母親に配布した。なお、同園に複数の幼児が通っている場合、末子について回答を依頼した。回答後は、研究者宛てに質問紙を直接郵送するよう文書にて母親に依頼し、さらに回答期日の7日前にアンケート調査への協力について再度母親に文書にて依頼した。

3. 調査内容

i. 母親および幼児の基本属性

母親の年齢、幼児の性別、および幼児の年齢について調査した。

ii. 母親の養育態度

母親の養育態度については、中道⁶⁾が開発し、信頼性および妥当性が確認された「親の養育態度尺度」を使用した。この尺度は応答性8項目（例：子どもを抱きしめたり、やさしい言葉をかけて愛情を示している）、統制5項目（例：子どもがあなたと決めた約束を守らない時、その約束をもう一度教える）の2因子13項目から構成されており、「全くあてはまらない」（1点）～「とてもあてはまる」（4点）までの4件法で得点化する。なお、この得点が高いほど、より望ましい養育態度であることを意味している。また、この尺度は他の研究においても使用されている中道ら⁵⁾の尺度（2003年）を因子分析し、改良を加えた尺度項目⁶⁾（2013年）であることから、本研究ではこの尺度を使用した。

iii. 母親のマインドフルネス

母親のマインドフルネスについては、若松ら¹⁵⁾が開発し、信頼性および妥当性が確認された「日本語版 Mindful Attention Awareness Scale（日本語版 MAAS）」を使用した。この尺度は1因子15項目（例：注意を払うことなく物事を行う）から構成されており、「ほとんどいつもある」（1点）～「ほとんどいつもない」（6点）までの6件法で得点化する。なお、この得点が高いほどマインドフルネスの度合いが高いことを意味し、すなわちより望ましい意識の持ち様であると解釈する。また、この尺度は広く国際的に使用されてい

る Mindful Attention Awareness Scale (MAAS)¹⁶⁾ の日本語版であることから、本研究ではこの尺度を使用した。

iv. 幼児の社会的スキル

幼児の社会的スキルについては、中台ら¹⁷⁾が開発し、信頼性および妥当性が確認された「家庭における幼児の社会的スキル尺度」を使用した。この尺度は主張スキル5項目(例: 友だちをいろいろな活動に誘う)、自己統制スキル4項目(例: 友だちからいやなことを言われても、適切に対応する)、協調スキル3項目(例: 言われなくても親の手伝いをする)の3因子12項目から構成されており、「全くみられない」(1点)～「非常によくみられる」(5点)までの5件法で得点化する。なお、この得点が高いほど、幼児がより多くの社会的スキルを獲得していることを意味している。また、この尺度は保育者(園の職員)評定である信頼性および妥当性が確認された中台ら¹⁸⁾の尺度25項目のうち、社会的スキル12項目について保護者による評定に表記を変更したものであり、構成概念妥当性についても再度確認されている¹⁷⁾ことから、本研究ではこの尺度を使用した。

v. 幼児の問題行動

幼児の問題行動については、中台ら¹⁹⁾が開発し、信頼性および妥当性が確認された「家庭における幼児の問題行動尺度」を使用した。この尺度は不注意・多動行動4項目(例: 注意散漫である)、引っ込み思案行動5項目(例: 友だちとの遊びに参加しない)、攻撃行動4項目(例: 人や物に攻撃的である)の3因子13項目から構成されており、「全くみられない」(1点)～「非常によくみられる」(5点)までの5件法で得点化する。なお、この得点が高いほど、幼児の問題行動がより多いことを意味する。また、この尺度は保育者(園の職員)評定である信頼性および妥当性が確認された中台ら¹⁸⁾の尺度25項目のうち、問題行動13項目について保護者による評定に表記を変更したものであり、構成概念妥当性についても再度確認されている¹⁹⁾ことから、本研究ではこの尺度を使用した。

4. 分析方法

母親および幼児の基本属性については、記述統計を求めた後、幼児の性別と幼児の社会的スキルおよび問題行動との関連性を t 検定で、幼児の年齢と社会的スキルおよび問題行動との関連性を Pearson の相関分

析を用いてそれぞれ検証した。母親の養育態度、母親のマインドフルネス、幼児の社会的スキルおよび問題行動については、記述統計を求めた後、それぞれの関連性を検討するために Pearson の相関分析を行った。そのうえで、幼児の社会的スキルおよび問題行動をそれぞれ従属変数とし、群間比較および相関分析においてこれらの従属変数とそれぞれ有意であった変数を独立変数とした重回帰分析を行った。なお、各変数の扱いとして、母親の養育態度(応答性および統制)、母親のマインドフルネス、幼児の社会的スキルおよび問題行動については、尺度項目の合計点を変数として扱うことからすべて間隔尺度とみなした。また、①両群の n 数が30以上かつ比が1.5倍以下であり、かつ両側検定を用いた場合、 t 検定の結果は観測変数の分布の歪みに影響を受けない²⁰⁾こと、②変数間の関係が線形であることが散布図によって確認できたこと、また n 数が多い(およそ $n \geq 65$) 場合、Pearson の相関分析は分布の歪みや正規性に対して頑強である²¹⁾こと、③重回帰分析における多変量の外れ値の処理として、スチューデント化削除残差の絶対値が3を超える標本を除外したこと、④これらの残差について Shapiro-Wilk の検定を行った結果、いずれも帰無仮説が棄却されなかった($p > 0.05$) こと、⑤独立変数間に多重共線性がなかったこと、からパラメトリック検定を行った。統計学的分析には SPSS for Windows Ver.22.0を使用し、有意水準は5%未満(両側検定)とした。

5. 倫理的配慮

研究参加は任意であり、質問紙の返送をもって研究への同意とみなすこと、得られたデータは本研究に限って使用すること、および研究結果の公表は個人が特定されない形で行うことを母親への研究依頼書に明記した。なお、本研究は広島大学大学院医歯薬保健学研究科看護開発科学講座研究倫理審査委員会の承認を得て実施された(承認番号: 25-28)。

III. 結 果

1. 有効回答率および欠損値の処置法

母親339名に質問紙を配布し、そのうち回収できた質問紙は125部であった(回収率36.9%)。なお、いずれかの尺度または下位尺度において25%以上の欠損値のあった者3名については、該当の尺度または下位

尺度項目を分析対象から外した。そのうえで、その他の尺度項目における欠損値については、Little²²⁾のMCAR 検定によって欠損パターンのランダム性が確認できたことから、すべての欠損値を同項目の平均値で置き換えた。

2. 母親および幼児の基本属性

母親125名の平均年齢は35.9±3.8歳（26～45歳）、男児51名（40.8％）の平均年齢は4.2±0.9歳、女児74名（59.2％）の平均年齢は4.1±0.7歳であった。

3. 各尺度の測定結果

親の養育態度尺度における母親の応答性（4点満点）の平均得点は3.40±0.34点（2.50～4.00点）、母親の統制（4点満点）の平均得点は3.65±0.31点（2.60～4.00点）、日本語版 MAAS における母親のマインドフルネス（6点満点）の平均得点は4.42±0.76点（2.47～6.00点）、家庭における幼児の社会的スキル尺度における幼児の社会的スキル（5点満点）の平均得点は2.94±0.63点（1.33～4.50点）、家庭における幼児の問題行動尺度における幼児の問題行動（5点満点）の平均得点は1.94±0.53点（1.00～3.62点）であった。

4. 幼児の基本属性と社会的スキルおよび問題行動の関連

i. 幼児の性別と社会的スキルおよび問題行動との関連

幼児の社会的スキルについては、男児（2.87±0.66点）と女児（3.00±0.61点）の平均得点に有意差を認めなかった（ $t = -1.142, p = 0.256$ ）。幼児の問題行動については、男児（2.06±0.54点）が女児（1.86±0.51点）よりも有意に平均得点が高かった（ $t = 2.091, p = 0.039$ ）。

ii. 幼児の年齢と社会的スキルおよび問題行動との関連

幼児の年齢は、社会的スキル（ $r = 0.264, p = 0.003$ ）との間に有意な正の相関を認めたが、問題行動（ $r = -0.071, p = 0.431$ ）との間には有意な相関を認めなかった。

5. 母親の養育態度とマインドフルネスおよび幼児の社会的スキルと問題行動の関連

母親のマインドフルネスは、母親の応答性（ $p < 0.001$ ）および幼児の社会的スキル（ $p = 0.004$ ）と有意な正の相関、幼児の問題行動（ $p < 0.001$ ）と有意な負の相関を認めた（表1）。母親の応答性は、母親の統制（ $p = 0.001$ ）および幼児の社会的スキル（ $p = 0.014$ ）と有意な正の相関、幼児の問題行動（ $p < 0.001$ ）

表 1 各尺度項目間の関連

		母親			幼児
		マインドフルネス	応答性	統制	社会的スキル
母親	応答性	0.337***			
	統制	0.145	0.301**		
幼児	社会的スキル	0.257**	0.221*	0.103	
	問題行動	- 0.403***	- 0.374***	- 0.267**	- 0.381***

Pearson の積率相関係数 * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

表 2 幼児の社会的スキルおよび問題行動を従属変数とした重回帰分析

従属変数：幼児の社会的スキル			調整済み $R^2 = 0.174$	
独立変数	t	β	p	VIF
幼児の年齢	3.834	0.320	<0.001	1.015
応答性（母親）	2.402	0.213	0.018	1.145
マインドフルネス（母親）	1.999	0.177	0.048	1.134
従属変数：幼児の問題行動			調整済み $R^2 = 0.289$	
独立変数	t	β	p	VIF
マインドフルネス（母親）	− 3.962	− 0.321	<0.001	1.126
応答性（母親）	− 2.903	− 0.245	0.004	1.220
統制（母親）	− 2.217	− 0.178	0.029	1.104
幼児の性別（女子）	− 1.811	− 0.139	0.073	1.011

と有意な負の相関を認めた。母親の統制は、幼児の問題行動 ($p=0.003$) と有意な負の相関を認めた。

幼児の社会的スキルおよび問題行動を従属変数とした重回帰分析

幼児の社会的スキルおよび問題行動に関連する変数について表2に示した。幼児の社会的スキルの高さには、幼児の年齢が高いこと、母親が応答性を重んじていること、母親のマインドフルネスの度合いが高いことの順で有意に関連し、調整済み決定係数 (R^2) は0.174であった。一方、幼児の問題行動の少なさには、母親のマインドフルネスの度合いが高いこと、母親が応答性を重んじていること、母親が統制を重んじていることの順で有意に関連し、調整済み決定係数 (R^2) は0.289であった。

IV. 考 察

1. 母集団および標本について

本研究では広島市内の幼稚園2施設を利用している母親を研究対象としていたこと、また回収率が36.9%と低かったことから、標本は母集団を反映していない可能性があるが、標本における対象児の出産年齢は20~42歳と考えられ、全国平均の31.0歳²³⁾と大きく相違がないことから、本研究の対象は母集団から大きくかけ離れていないとも考えられる。

2. 幼児の基本属性と社会的スキルおよび問題行動との関連

幼児の年齢が高いほど社会的スキルは高く、また男児が女児よりも問題行動が多かった。これまで、幼児の年齢の高さと社会性の高さとの間に有意な正の相関があったこと²⁴⁾、かつ男児の方が女児よりも問題行動が多いこと¹⁸⁾が報告されていることから、先行研究と同様の結果となった。従って、幼児は成長に伴い、また家庭や幼稚園などさまざまな人との交流に伴って社会的スキルの獲得が促されること、また問題行動については男児の方が多かったことから、特に男児に対して問題行動の減少を目的とした支援の必要性が考えられる。

3. 母親の養育態度とマインドフルネスおよび幼児の社会的スキルと問題行動の関連

母親の統制を除き、いずれも有意な相関を認めた。母親の統制とマインドフルネスとの関連については

先行研究が見受けられないため、今後さらなる検討が必要である。一方、母親の統制と幼児の社会的スキルとの関連については、母親が幼児に対して受容的かつ非統制的であった場合、幼児の社会的スキルのうち自己制御機能がより高かったと報告されている²⁵⁾ことから、母親の統制は応答性と比較して、社会的スキルとの関連が弱い可能性が考えられる。また重回帰分析の結果、幼児の社会的スキルおよび問題行動に共通して関連したのは、母親のマインドフルネスおよび応答性であった。Singh ら²⁶⁾は、マインドフルネスについての心理教育や瞑想を用いた12週間の介入プログラムを母親に行った結果、母親の育児満足感、および母親の応答性との関連が考えられる「母子の相互作用」に対する母親の満足感が向上し、さらに子どもの攻撃や不服従といった行動が減少したことを報告している。従って、本研究およびSingh ら²⁶⁾の研究結果により、母親のマインドフルネスや応答性といった側面が、幼児の社会性の発達に肯定的な役割を果たす可能性があるのではないかと考える。ただし、子どもの気質が母親の育児に与える影響²⁷⁾など、子どもから母親への影響があった可能性も考えられることから、今後は母親のマインドフルネスや応答性に焦点を当てた介入方法の検討や実際の介入によって、今回横断的に調査した変数間の因果関係について検討する必要がある。

V. 本研究の限界と今後の課題

本研究は横断研究であり、対象施設を一地域の幼稚園に限定していたため、結果の一般化には限界がある。今後は複数の地域および施設を調査対象とし、さらにコホート研究や介入研究を行うことで、今回得られた知見をより一層普遍的な結果に近づけたい。

VI. 結 論

母親の養育態度（応答性および統制）、母親のマインドフルネス、幼児の社会的スキルおよび問題行動について関連性を検討した結果、母親の統制を除き、いずれも有意な相関を認めた。また、幼児の社会的スキルおよび問題行動に共通して関連したのは、母親のマインドフルネスおよび応答性であったことから、母親のマインドフルネスや応答性といった側面が、幼児の社会性の発達に肯定的な役割を果たす可能性が示唆された。

本研究の一部を、日本健康心理学会第28回大会において発表した。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 内閣府. 平成19年国民生活白書—つながりが築く豊かな国民生活—. 2007 : 39-44.
- 2) Patterson GR, DeBaryshe BD, Ramsey E. A developmental perspective on antisocial behavior. *Am Psychol* 1989 ; 44 : 329-335.
- 3) Campbell SB, Pierce EW, March CL, et al. Hard-to-manage preschool boys : symptomatic behavior across contexts and time. *Child Dev* 1994 ; 65 : 836-851.
- 4) Baumrind D. The Discipline Controversy Revisited. *Fam Relat* 1996 ; 45 : 405-414.
- 5) 中道主人, 中澤 潤. 父親・母親の養育態度と幼児の攻撃行動との関連. 千葉大学教育学部研究紀要 2003 ; 51 : 173-179.
- 6) 中道主人. 父親・母親の養育態度が幼児の自己制御に及ぼす影響. 静岡大学教育学部研究報告 2013 ; 63 : 109-121.
- 7) 米澤好史. こどもと向き合い, 生きる力を育てる育児と教育. 和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要 2000 ; 10 : 1-20.
- 8) 熊野宏昭. マインドフルネスはなぜ効果をもつのか. *心身医学* 2012 ; 52 : 1047-1052.
- 9) 日本マインドフルネス学会. <http://mindfulness.jp.net/> (2015年11月18日 access)
- 10) Kuyken W, Hayes R, Barrett B, et al. Effectiveness and cost-effectiveness of mindfulness-based cognitive therapy compared with maintenance antidepressant treatment in the prevention of depressive relapse or recurrence (PREVENT) : a randomised controlled trial. *Lancet* 2015 ; 386 : 63-73.
- 11) Goldin PR, Gross JJ. Effects of mindfulness-based stress reduction (MBSR) on emotion regulation in social anxiety disorder. *Emotion* 2010 ; 10 : 83.
- 12) Singh NN, Lancioni GE, Winton AS, et al. Mindfulness-Based Positive Behavior Support (MBPBS) for mothers of adolescents with autism spectrum disorder : effects on adolescents' behavior and parental stress. *Mindfulness* 2014 ; 5 : 646-657.
- 13) Williams KL, Wahler RG. Are mindful parents more authoritative and less authoritarian ? An analysis of clinic-referred mothers. *J Child Fam Stud* 2010 ; 19 : 230-235.
- 14) 大内晶子, 長尾仁美, 櫻井茂男. 幼児の自己制御機能尺度の検討. *Jpn J Educ Psychol* 2008 ; 56 : 414-425.
- 15) 若松清江, 境 泉洋, 佐藤健二, 他. 日本語版 Mindful Attention Awareness Scale (MAAS) の開発—注意機能とマインドフルネスおよび抑うつとの関連についての検討—. 日本行動療法学会大会発表論文集 2011 ; 37 : 462-463.
- 16) Brown KW, Ryan RM. The benefits of being present : mindfulness and its role in psychological well-being. *J Pers Soc Psychol* 2003 ; 84 : 822-848.
- 17) 中台佐喜子, 金山元春. 母親の養育態度が幼児の社会的スキルに及ぼす影響. 家庭教育研究所紀要 2004 ; 26 : 61-66.
- 18) 中台佐喜子, 金山元春. 幼児の社会的スキルと孤独感. *カウンセリング研究* 2002 ; 35 : 237-245.
- 19) 中台佐喜子, 金山元春, 前田健一. 母親の養育態度が幼児の問題行動に及ぼす影響 : 養育態度→家庭における問題行動→園における問題行動というプロセスの検討. *広島大学心理学研究* 2004 ; 4 : 151-157.
- 20) Sawilowsky SS, Blair RC. A more realistic look at the robustness and type II error properties of the t test to departures from population normality. *Psychol Bull* 1992 ; 111 : 352-360.
- 21) Norman G. Likert scales, levels of measurement and the "laws" of statistics. *Adv Health Sci Educ* 2010 ; 15 : 625-632.
- 22) Little RJ. A test of missing completely at random for multivariate data with missing values. *J Am Stat Assoc* 1988 ; 83 : 1198-1202.
- 23) 厚生労働省. <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suii09/brth5.html> (2015年11月18日 access)
- 24) 東 敦子, 野辺地正之. 幼児の社会的問題解決能力に関する発達的研究. *Jpn J Educ Psychol* 1992 ; 40 : 64-72.
- 25) 森下正康. 幼児の自己制御機能の発達研究. 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要 2003 ; 13 : 47-56.

- 26) Singh NN, Lancioni GE, Winton AS, et al. Mindful parenting decreases aggression, noncompliance, and self-injury in children with autism. *J Emot Behav Disord* 2006; 14: 169-177.
- 27) 水野里恵. 乳児期の子どもの気質・母親の分離不安と後の育児ストレスとの関連: 第一子を対象にした乳幼児期の縦断研究. *発達心理学研究* 1998; 9: 56-65.

[Summary]

This study aims to examine the relationships among mothers' parenting attitudes and mindfulness to infants' social skills and problem behaviors. The research subjects were 125 mothers with infants aged three to six. The mothers' parenting attitudes (responsiveness and demandingness) and mindfulness were analyzed in rela-

tion to infants' social skills and problem behaviors with a simple correlation analysis, which showed a significant correlation except for the mothers' demandingness. Using multiple regression analysis, the mothers' mindfulness and responsiveness were related to the infants' social skills and problem behaviors, respectively. Human relations are an interaction, so it is also necessary to consider the influence from children to mothers. There is also the possibility that mothers' mindfulness and responsiveness contribute to the development of infants' sociable behaviors.

[Key words]

parenting attitudes, mindfulness, infant, social skills, problem behaviors

会 合 案 内

8th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases (ACPID)

会 期: 2016年11月7日 (月)~10日 (木)

会 場: Queen Sirikit National Convention Center, バンコク, タイ

会 頭: Usa Thisyakorn, M.D.

学会ホームページ: <http://www.acpid2016.com/index.php>

抄録提出締切: 2016年5月31日 (火)

Early bird registration 締切: 2016年7月31日 (日)

Regular registration 締切: 2016年10月31日 (月)